

小さい命を救うには

熊本県立玉名高等学校

3 すべての人に
健康と福祉を



きっかけ

・最近、熊本や全国のニュースで熊本県にある慈恵病院の赤ちゃんポストの利用や内密出産が実施されたなどの話題を見聞きするうちに、子供を授かって育てるということは良いことなのになぜ子供を自分の手で育てずに他の人に里子に出すようなことになってしまうのかと思ったため。
・先日も某県で起こった子供を殺し、遺体を遺棄した事件があり、なぜ生まれてきて何年かで殺されなければならないのかと思ったため。

課題を解決することで社会に与える影響

これから生まれてくる命が生まれてきて虐待されたり殺されたりするようなことがなくなる。

この課題に対する予想される答え

予期せぬ妊娠をしてしまったら、養子に出すとかではなく、パートナーと責任を持って育てる。

やっと授かった命、絶対に育てる。

突然子供ができたと言われてもどうしようもできない。

子供を妊娠したとしても、自分たちの今の生活が優先。

お金がないから育てきれない。

自分の生活が優先だから手放す他方法がない。

子供が嫌いだから育てたくない。



研究方法

関連書籍・インターネット・テレビ

まとめ

日本では熊本県の慈恵病院がコウノトリのゆりかご(赤ちゃんポスト)を実施しており、子育てができない方への支援を行っている。

海外でもアメリカ、中国、韓国、ドイツなどにも赤ちゃんポストが設置されており、失くしてはいけない小さな命を守る活動がなされている。

私は、**出産後の健康診断だけでなく、少なくとも年に一回は育児についてや子供が元気に生活しているかのような相談を10歳まで自治体の役場でできないか。役場、自治体に意見提言をしたいと思います。**また、この研究を通し、まずは**理解することがこの問題を少しでも解決していける鍵になると感じました。**

関連URL

<https://garagaragara.com/life/surprised/465.html>

https://373news.com/_news/storyid/143216/